

データから読み解くグローバルサウスの可能性と今後の展望

野村総合研究所エネルギー産業コンサルティング部
グローバル産業インフラグループグローバルマネジャー

又木毅正
またき たかまさ



グローバルサウス(以下、GS)^(注)の政治的重要性と経済的な期待が高まるものの、GS諸国ごとの経済力・社会課題・日本との関係性は多様性をみせている。できるだけ定量データに基づいて、GS諸国を経済発展および日本との関係から分類し、今後の展望の整理を試みる。

GSの経済規模は欧米中を超える

2026年にはGSの人口合計が世界の3分の2を占めると推計されている。さらに、経済規模はすでに中国の名目GDPを上回っており、2040年までには米国および欧州の名目GDPを超える見込みである。

GS諸国の経済・産業発展段階や直面する課題は多様である

GS全体では巨大な経済圏ではあるが、個

別国の事情は多様性に溢れている。国の経済発展状況を1人当たりGDPで、産業発展段階を製造業輸出額で捉えたと、GS諸国を5類型に分類できる(図表)。

分類①―発展初期段階として、多くのアフリカや中南米諸国が分類できる。核となる国際競争力のある産業が乏しく、今後の発展が期待される国である。

分類②―内需製造業振興段階としてブラジル、インドネシア、フィリピンなどが分類できる。豊富な人口をベースとした内需向けの製造業が振興しているが、まだ輸出大国には発展しきれていない。

分類③―内需製造業振興段階の垂流として、インド、ベトナムが分類できる。これらの国は、製造業輸出額が大きいものの経済成長はまだ一段低く、輸出大国への一層の発展が期待されている。

分類④―輸出産業成熟段階として、トルコ、マレーシア、タイが分類できる。これらの国は、すでに一定の経済成長を遂げ、輸出製造産業も育っており、今後の発展に向けて新産業の創出が期待されている。

分類⑤―資源・3次産業成熟段階として、多くの中東、中南米諸国が分類できる。これらの国は、鉱物・石油の産出や観光が産業の柱で、今後のさらなる発展に向けて製造業振興や新産業の創出が期待されている。

世界のこれまでの産業・経済発展の形態としては、製造業主導型成長(発展パターンB)のように、内需製造業が振興し、輸出製造業が振興していくところが比較的多くの国で目指される場所であった。なお、輸出製造業ドライブ型成長(発展パターンC)のように国全体の経済レベルが上がるよりも早く輸出産業が振興していくこともある。また、資源・

サービス主導型成長(発展パターンA)のように小国や資源国・観光国においては、製造業が発展せずに経済発展していくこともある。この三つの成長パターンは、今後も主流ではあるものと思われるが、AI・デジタル進展に

より新産業を生み出すことができた場合、分類①から分類④、分類②・③から分類④へ短期間で成長する国が出てくる可能性がある。また、分類②・③の国が製造業に寄らずに経済発展を遂げる可能性も出てくるものと思われる。

経済・産業発展段階に 応じて日本の貢献、 日本企業の事業機会 異なる

分類①の発展初期段階の国は、まだまだ道路、エネルギー、上下水道、鉄道といった基礎インフラ構築が必要で、日本の政府開発援助(ODA)が活躍できる余地が大きい。ただし、インフラ構築に際しては、安価に提供できる新興国企業が出てきており、これら企業と日本企業の連携が鍵を握る可能性が高い。

分類②・③の内需製造業振興段階の国は、工業団地や裾野産業などの産業インフラ構築や、医療・福祉、教育、操業しやすい事業環境など社会制度構築が必要となっている。日本の産業振興・人材・制度一体型の政府支援が貢献できる余地が大きい。また、日本の製造業にとって、分類②の国は巨大な内需市場狙い、分類③の国は輸出拠点として展開余地がある。

分類④の輸出産業成熟段階の国

や分類⑤の資源・3次産業成熟段階の国では、GX対応や社会幸福度の向上、新産業創出に向けて、課題先進国の日本が共創できる余地が大きい可能性がある。

GS新潮流としての新エコシステム 形成の場とイノベーションの一極

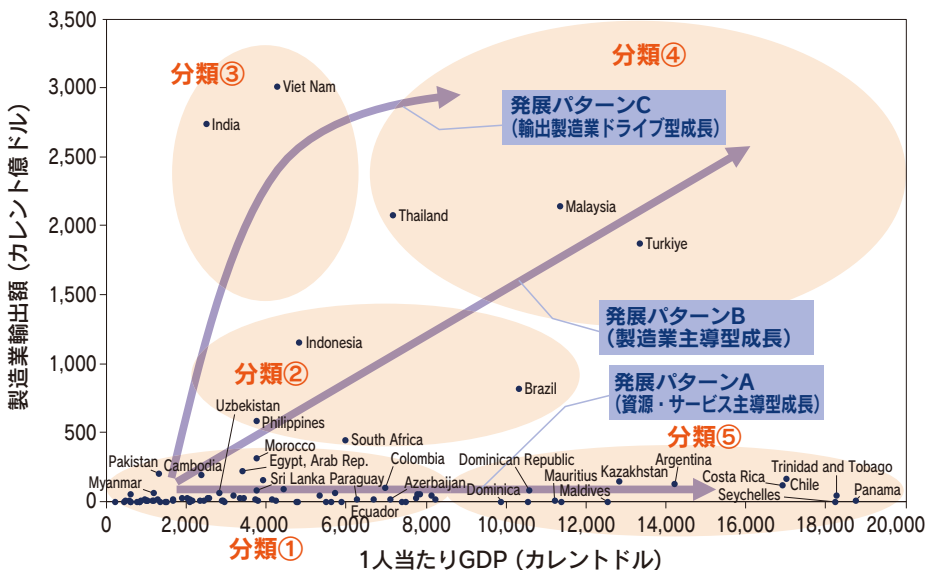
分類②・③に該当する国が、GS諸国向けの新事業・業態の新エコシステム形成のインキュベーションの場としての役割を担うケースが増えてきている。例えば、自動車シェアリングサービスは欧米ではUberが有名だが、GS諸国ではGojekやGrabなど異なった企業によるエコシステムが形成されている。

GS諸国の独特の経済圏に目をつけて、日本企業でもGS諸国で新エコシステム形成を目指す事例が出てきている。例えば、インド、ベトナムなどで安価な健康診断サービスを構築し、展開を目指す富士フイルムや、インドやタイで中古車や中古部品の査定サービスを核にサーキュラー事業を目指すデンソーが挙げられる。

また、インドでは、欧米企業向けBPO(Business Process Outsourcing)事業を發展させて豊富なAI・IT人材を活用した最先端のR&Dに取り組みGCC(Global Capability Center)の活躍・進展が目覚ましい。インドが欧米、日本、中国に比肩する研究開発の一極となりつつあるのである。

日本および日本企業は、GS諸国・企業とその発展段階に応じて共創し、成長していくことが期待されている。

図表 GS諸国の製造業輸出額と1人当たりGDP(2023年)



注: GS155カ国のうち、製造業輸出額 3,500億ドル未満および1人当たりGDP 20,000ドル未満の国を対象
出所: World Bank Data Bank よりNRI加工

(注)グローバルサウス: 本稿では、東南アジア、南西アジア、中央アジア、中南米、中東、アフリカ、太平洋島しょ国などの155カ国と位置付ける